

<春の贅沢>ほんの一月ほど前までは春の足音に耳をすませたものです。ところが今や春が満ち溢れ何とも賑やかです。最初に雑木林に咲き出した花々のうち3つばかりを紹介しましょう。まずはかなりの広がりで見られるヒトリシズカです。白いブラシ状の花とそれを取り囲む艶(つや)の良い4枚の葉が目につきます。ヒトリシズカはこの様子を静御前の舞姿(ビオトープの四季 No.6



<ヒトリシズカ>

参照)になぞらえ付けられた名前ですが花期も短く儂さを感じさせます。二つ目はタチツボスミレで、花色は薄い青を中心にして少しピンク掛かったものなど様々です。種が弾けて飛ぶか風が運ぶのか、今やSHCのどこでも見られる



<タチツボスミレ>



<ムラサキケマン>

ようになりました。ところでヒトリシズカやスミレの咲く林の下生えの中でひととき強く自己主張しているのがムラサキケマンです。紫の穂状の花、草丈の高さそして生えている数でも他を圧倒しています。



<ムラサキケマン>漢字で紫華蔓、華蔓は仏堂の花環のような荘厳具(金銅製)ですが花を連想できません。プロトピンというアルカロイドを含み“ネコイラズ”とも言われるように有毒です。

<想わぬ幸運>秋ごとにとりわけ沢山

<ドングリからの芽ばえ>

<シュンラン>

のドングリを落とす雑木林があり、この春先には発芽したドングリが多く見られました。先日林に足を踏み入れたところ立派に小さな葉を付けだしたのが見られました。また幸運にもその近くの雑木の根元にシュンラン(春蘭)の蕾を見つけました。花屋で見る洋ランの豪華さとは違い、うす緑が主で目立ちませんが清楚な感じがします。そのためか昔の文人墨客が大いに愛でたランです。

<期待に違わず>ビオトープの東斜面に植わっているニリンソウが大きな株になり沢山の花を付けています。花の白、蕾の少し薄めの赤紫と葉の緑とが合わさって素晴らし眺めです。ニリンソウはどうやらビオトープの環境に馴染んだよう



<ニリンソウ>



です。もっと日当たりの良いところではカラスノエンドウが赤紫の花を付けワスレナグサが小さなブルーの花を咲かせています。どこでも見かけますが春には欠かせないものですね。

<旅立ち>4月の初めまでビオトープの小さな池に過密なほどに来ていたマガモたちもこの10日ほどの間に姿を消しました。おそらく北に旅立ったのでしょう。写真は噴水のあるプールに遊びに来ていたマガモがカメラに驚いて飛び立つところです。“旅立ち”ではありませんがとび立つ姿に“また逢う日まで”の想いを!!

(文と写真: 松本正勝)